

## 1 スポーツを取り巻く社会の変化

### (1) 人口減少・長寿社会の到来

- 日本の総人口は平成20（2008）年をピークに減少局面に入って10数年が経過し、小学生児童数に加え、中学生生徒数の減少が加速化するなど少子化が進行しています。
- 本県の人口は、平成17（2005）年の約196万人をピークに減少が続いており、将来人口は、年間の減少数が2030年代には1万人を超え、令和27（2045）年には、約162万人まで減少すると推計されています。
- 県内市町村の令和27（2045）年の将来人口は、7割を超える市町村において、年少人口と生産年齢人口に加えて、高齢者人口も減少する「人口急減」の段階となる見込みです。
- さらに、令和22（2040）年の高齢化率は34.9%となり、その後も人口減少とともに高齢化率は上昇し、令和27（2045）年には36.0%、県内市町村の約6割で40%を超えると推計されています。
- これらは、スポーツに参画する者やそれを支える担い手の不足、学校部活動や地域におけるスポーツ環境の維持の困難さにつながっています。
- いくつになってもスポーツに親しめるよう、あらゆる世代のための運動・スポーツ機会の創出がより一層求められます。

### (2) ライフスタイルの変化

- 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く未来社会を指すSociety 5.0時代が到来し、AI、ビッグデータ、IoTなど先端技術の活用を通じて、人々の働き方や生活様式等のライフスタイルも大きく変わろうとしています。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大期の移動制限の影響も受け、デジタル環境・データ環境の整備が急速に進展し、デジタル技術を活用した「する」「みる」スポーツへの需要が高まるとともに、「ささえる」スポーツとして、教える分野における教授法の改革等も進展しつつあります。
- テレワークの普及を始めとする働き方改革は生活時間の使い方に変化を生もうとしており、これまでスポーツを楽しむ時間がとれなかった働く世代・子育て世代が、毎日の生活の中でスポーツに親しめる好機と捉えることもできます。

### (3) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復

- 令和2（2020）年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動も制限され、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響等のほか、大会やスポーツを核にした交流イベント等も中止となり、閉塞感がまん延しました。
- 一方、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど優れた効果を及ぼす重要な価値を持っていることを改めて示すことともなりました。

- 新型コロナウイルス感染症の収束等については先行きが不透明であり、確実な見通しを持つことは困難なものの、ポストコロナの「新たな日常」を見据え、どのような状況であっても県民が「する」「みる」「ささえる」スポーツに親しみ、楽しむことができるようなスポーツ環境につながる取組を進める必要があります。

#### (4) 東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」の継承・発展

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が1年延期された東京オリンピック・パラリンピックは、大部分の競技を無観客として令和3（2021）年に開催され、スポーツの人々の心を動かす力や楽しさを再認識するとともに、スポーツが今後の社会の活性化等に寄与する価値を改めて見いだすことができました。
- 「多様性と調和」を基本的なコンセプトのひとつとして、いわゆる「オリ・パラ一体」を目指した東京オリンピック・パラリンピックを通じ、あらゆる面での違いを受け入れて、互いに認め合う共生社会を育むことの重要性が改めて認識されました。
- 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした県民のスポーツへの意識と共生社会への理解・関心の高まりを「スポーツ・レガシー」として継承・発展させるとともに、本県ゆかりの選手の活躍を生み出した競技力向上への支援を継続することで、地域の活性化とチーム岡山競技力向上の好循環を実現する必要があります。

## 2 スポーツの意義

- スポーツ基本法の前文冒頭において「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と記され、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人または集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとされています。
- この「スポーツ」には、競技スポーツに加え、散歩やダンス・健康体操、ハイキング・サイクリング、野外活動やスポーツ・レクリエーション活動も含まれており、「文化としての身体活動」を意味する広い概念です。
- スポーツには、青少年の体力向上と人格形成への大きな影響、地域の一体感や活力醸成、健康で活力に満ちた長寿社会の実現、人々に誇りと喜び、夢と感動を与える力、地域経済の活性化、国際相互理解の促進等、様々な機能があります。
- 国の「第3期スポーツ基本計画」では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形での自発的な参画を通して、楽しさやよろこびを感じることに本質を持つものとして捉えています。

## 3 スポーツ推進計画（改訂版）の進捗状況

「岡山県スポーツ推進計画（改訂版）」（計画期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度）における数値目標の達成状況及び取組成果と課題（主なものは、次のとおりです。

## (1) 基本施策I「ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進」

項目	基準値	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近	目標値
	平成 28 2016				令和 3 2021	令和 4 2022
成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合	49.1%	50.4%	48.5%	59.5%	61.5%	52.0%
成人の1日の歩数 ※5年に1回の調査						
【20～64歳】男性	8,068歩	—	—	—	—	9,000歩
女性	6,520歩	—	—	—	—	8,500歩
【65歳以上】男性	5,502歩	—	—	—	—	7,000歩
女性	4,859歩	—	—	—	—	6,000歩
新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合						
【小5男子】	27.7%	29.0%	31.7%	—	35.5%	25.0%
【小5女子】	23.3%	24.2%	26.0%	—	29.1%	21.0%
【中2男子】	24.2%	26.7%	28.8%	—	31.5%	21.8%
【中2女子】	11.2%	11.8%	12.1%	—	15.4%	10.0%
1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合						
【小5男子】	5.7%	7.1%	7.2%	—	8.6%	5.0%
【小5女子】	10.5%	12.5%	11.6%	—	14.7%	8.5%
【中2男子】	7.1%	6.3%	7.0%	—	7.4%	5.0%
【中2女子】	20.7%	20.6%	19.3%	—	17.7%	18.2%
障害者スポーツ・レクリエーション教室参加者数	年間 1,105人	年間 680人	年間 744人	年間 —	年間 297人	年間 1,200人
「障がい者スポーツ指導員」養成人数 ※基準値はH24(2012)～H28(2016)年度の平均	年間 23人	年間 16人	年間 12人	年間 —	年間 21人	年間 30人

P D C A サイクルにより運営の改善等を図る総合型地域スポーツクラブの数	11クラブ	14クラブ	13クラブ	13クラブ	15クラブ	30クラブ
--	-------	-------	-------	-------	-------	-------

## 【取組成果】

- ・すべての県民が、体力や年齢、目的等に応じた運動・スポーツ活動に参加できるよう、実践方法等の啓発、指導者向け研修、関係機関の連携強化、スポーツ教室等を実施し、ライフステージに応じた運動・スポーツ活動を推進しました。
- ・子どもたちの運動の習慣化を図り、体力向上への取組を進めるため、主体的に運動の楽しさや喜びを味わうことができる様々な取組を推進しました。
- ・障害者スポーツ教室等の開催により障害者スポーツの裾野を広げるとともに、障がい者スポーツ指導員の養成を図り、地域で障害者スポーツの指導にあたる人材を育成しました。

## 【課題】

- ・ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の促進と定着に向け、スポーツにあまり関心がない層も含め、県民ニーズに応じた事業スキームを検討する必要があります。
- ・引き続き、望ましい運動習慣や食習慣を形成するための情報を、積極的に教師や保護者等へ発信し、啓発に努める必要があります。
- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした障害者スポーツのさらなる振興を図るとともに、障害者スポーツに対する県民の理解と関心を高める必要があります。

## (2) 基本施策II「アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築」

項目	基準値	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近 令和 3 2021	目標値
	平成 28 2016					令和 4 2022
国民体育大会における天皇杯順位	16 位 ※H29 年	11 位	12 位	—	—	10 位台
全国高等学校総合体育大会の入賞数	84	48	68	—	57	60 台

## 【取組成果】

- ・国民体育大会及び全国高等学校総合体育大会とも、新型コロナウイルス感染症の影響により開催されなかった年がありますが、ジュニア年代からの一貫指導体制を構築し、継続的な強化に取り組むことで、一定レベルの競技力を維持しています。

## 【課題】

- ・今まで培ってきた競技力向上のための資源を、次世代に継承する必要があります。
- ・アスリートの安全・安心を図り、スポーツの価値を誰もが享受できるよう、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）を高める必要があります。

## （3）基本施策Ⅲ「スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現」

項目	基準値	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近	目標値
	平成 28 2016				令和 3 2021	令和 4 2022
「普段の生活の中で芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.6% ※H29年度	28.8%	40.4%	28.0%	26.2%	38.0%
地域スポーツコミッションの数	2団体 ※H29年度	4団体	4団体	4団体	4団体	6団体
ナショナルチームキャンプ等誘致件数 ※目標値は H30(2018)～R4(2022)年度の計	5件	13件	12件	2件	9件	25件
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数 ※目標値は H29(2017)～R3(2021)年度の計	－	618件	981件	1,173件	1,246件	2,000件
トップクラブチームのホームゲームにおける観客動員数	シーズン 248千人	シーズン 211千人	シーズン 243千人	シーズン 81千人	シーズン 111千人	シーズン 273千人

## 【取組成果】

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けたナショナルチームキャンプ等の誘致において、一定の成果を上げ、県民のスポーツに対する興味、関心を高めることができました。
- ・トップクラブチームのホームゲームにおいて、応援イベント等を実施し、スポーツ活動に取り組む人たちやファン・サポーター等の拡大、県全体で応援する機運の醸成を図ることができました。

## 【課題】

- ・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした県民のスポーツへの関心の高まりを、「スポーツ・レガシー」として継承・発展させる必要があります。
- ・トップクラブチームを取り巻く環境の変化や、新たな時代の動きに応じて、新たな取組を検討し、地域活性化につなげる必要があります。

## (4) 基本施策Ⅳ「スポーツ環境の整備」

項目	基準値				直近	目標値
	平成 28 2016	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	令和 3 2021	令和 4 2022
県営スポーツ施設利用者数	1,990 千人	1,735 千人	1,623 千人	775 千人	492 千人	1,930 千人
学校体育施設の開放率						
【屋外運動場】	78%	78%	75%	—	—	85%
【体育館】	89%	90%	89%	—	—	91%
【武道場】	59%	59%	61%	—	—	60%
	※H27年度	※H29年度	※H30年度	※R元年度	※R2年度	※R3年度
スポーツ情報ウェブサイト「おかやまスポーツナビ」のアクセス数	21,689 件	20,534 件	26,531 件	19,872 件	45,474 件	40,000 件

## 【取組成果】

- ・県営スポーツ施設について、施設機能の維持充実のため必要な改修工事等を行いました。
- ・スポーツ情報ウェブサイト「おかやまスポーツナビ」において、様々なスポーツの楽しみ方や実際に参加するための情報発信と内容の改修に努めました。

## 【課題】

- ・計画的な改修等によりユニバーサルデザインに配慮した県営スポーツ施設の長寿命化を図るとともに、スポーツ施設の安全確保にかかる取組を強化する必要があります。
- ・県民が気軽に運動・スポーツに参加できるよう、スポーツ情報ウェブサイト「おかやまスポーツナビ」について、ニーズに合った内容や最新情報の提供ができるよう内容の充実を図る必要があります。